

交通事故のとき(その2)

応急処置の手順



肩をやさしくしっかりたたいて、耳もとで声をかけ、意識の有無を確認めます。本人に意識があれば、本人の要望に応じること。

意識がなく、あお向けに倒れていた場合、呼吸の有無をたしかめます。うつ伏せに倒れていれば、負傷者の体をねじらないように、ゆっくりとあお向けにします。首に骨や神経の損傷があると、ねじったことが致命傷になる恐れがあります。



出血の有無をみる

骨折・打撲を調べる

火災にあつたら

止血

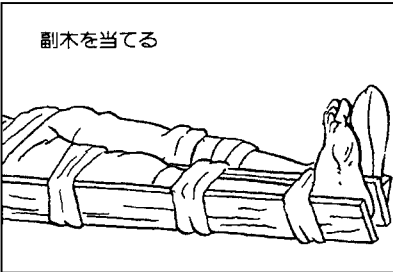
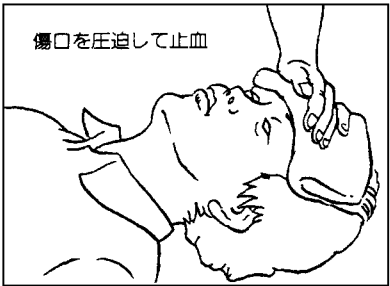
副木

冷やし続ける

動脈性出血や静脈性出血は、大量に出血する危険な状態です。ハンカチなど当てて直接圧迫し、大出血を止めなければなりません。

骨折も多様で、手のつけられない状態が多いのですが、初期の応急手当で損傷部分に副木をあてるなどします。

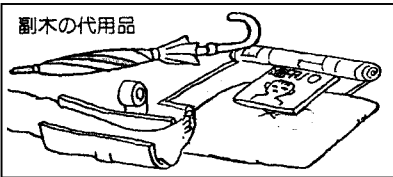
時にはガソリンの引火などで、火傷もでるケースがあります。応急手当としては水など多用して、冷やし続けることが大事。



軽くても甘くみない

何ごともなかったように見えたり、軽い負傷に見えても、必ず医師の診察を、1週おきぐらいに数回受けるようにします。内部損傷をうけて、いつ容態が急変するか判らないのが交通事故の恐ろしさです。

ふつう「むち打ち症」といわれる頸骨捻挫も、バスタオル、ダンボール箱、ビニールシートなど組み合わせ、首を固定させます。



パトカーが来たら 警察官に指示をまかせる

